

『新学習指導要領による文法指導について』

鏑 木 光 朗

現行の教育課程は、高校は昭和35年に定められたものであるが、その後の情勢の変化に応じて昭和45年10月に学習指導要領が改訂され、それに基づく新教科書が昭和48年度の新1学年から使用されることになった。その新教科書の種類は、高校では大分変わり、英語A、英語Bの読本のほかに、従来の文法、作文がそれぞれ独立して、文法は3単位用1冊、作文は1単位用3冊となり、それに初級英語3単位用2冊と英語会話3単位用1冊が加わってくる。そして英語は必修から再び選択教科となったのである。さて新旧の学習指導要領を比較してみると、次のいくつかの点で変わっていることが分かる。即ち

- (1) 目標の「英語をとおして、英語国民の生活やものの見方について理解させる」が「——外国の人々の生活——」となって、英語国民だけに限定しないで、広く世界の人々を対象としているのが認められる。
- (2) 文型・文法事項につき、従来の英語Aでは、「基本的用法」英語Bでは、「やや進んだ用法」というあいまいな表現の仕方であったが、中学校・高等学校全体をとおした学年配当をしているのが認められる。
- (3) 生徒の能力差を考えた取り扱い方を示すようになった。即ち新・旧のいずれにも文法事項などに*印を付したものがあるが、旧では授業時数の多い場合に扱うことにしたのに対し、新では「生徒によっては軽く取り扱ってもよい」という示し方をしている。この軽くというのは、運用までを指導しないで意味の理解にとどめることだと「指導書」では解説している。
- (4) 学習活動が言語活動という考え方に移った。言語活動については、「指導書」は英語の学習指導の過程において、音声の練習をさせたり、文型の練習をさせたりすることもあろうが、このような言語の一面についての練習は、言語活動の中に含めていない。これに対して、言語活動は「音声や文型などをも含めて、総合的に行わせるものであり、言語の実際の使用につながるものである」と解説している。
- (5) 高校では初級英語が3—3か2—2—2、英語Aが3—3—3、英語Bが5—5—5で、この5の内容は〔読本3+作文1+文法1〕か〔読本・文法4+作文1〕の2通りとなり、英語会話を行なう場合は、なるべく第1学年で行なうようにし、5に3を加えることになる。

以上見て来ると、英語の多様化と実用化を特に強調して来たように思われる。さて学習指導要領の内容として、(1)言語活動 (2)言語材料に大別され、後者の下位区分としては、音声・文・文型・語および連語・文法事項・文字・符号・文体がある。それは表になって出ているのである。この中文法に関するものを表にして以下に記すことにする。

文 法 事 項

高 A 1	高 A 2	高 A 3	高 B
(㊦) 不定詞 (副詞用法—原因) 活法 (㊧) 接続詞 : after, before, since, till, while, neither~nor	(㊦) 関係代名詞 what, which, who の非制限的用法 (㊧) 時制 : 過去完了形・未来進行形 ・受け身 (完了形) ・分詞構文 (時・理由・付帯状況) ・仮定法過去 ・助動詞 (might, oughto, used to)	(㊦) 不定詞 (副詞用法—結果)	(㊦) 前置詞+関係代名詞 (㊧) 関係副詞の非制限的用法** (㊦) 時制 : 過去完了進行形, 未来完了形 ・受け身 (進行形) ・不定詞 (完了形・受け身形, 副詞用法—条件; 独立用法) ・分詞構文 (完了形・譲歩・条件; 独立用法)** ・仮定法 (過去完了・未来)** ・助動詞 : need (㊧) 語順と一致 ・句と節 (名詞・形容詞・副詞) ・省略・倒置・挿入**

(註) *印は生徒によっては軽く取り扱ってもよい。

**印は意味を理解させるにとどめてもよい。

以上新指導要領における従来と異なった点を述べたのであるが、全体としての目標その他では異なった点もいくつかあるが、それほど大きな変化は見なれない。これは英語そのものは何十年前から変わらず、多少の慣用上の移り変りはあるにせよ、言語素材として大きな変化がないためではなかろうかと考えられる。ただカリキュラムの点で多少の変化が行われただけであると考えられるのである。従って今ここに、高校の文法指導について考えて見ても、そこに取り扱う文法事項の点で多少変っているだけで、文法授業そのものは従来とあまり変わらないのではないかと思われる。それでこれから高校の文法指導はどうあるべきかについて考えてみたいと思う。それについて先ず問題となるのは、授業時数のことであるが、これも学校により多少異なるが、本校においては従来、英語の5単位をリーダー3単位、文法1単位、作文1単位として来た。

即ち文法としては週1時間の授業を行っている。これでは授業時数として不足していると思う。学校によっては文法・作文を一つにして文・作として週2時間行っている学校もあり、この方が多いと思うが、その場合にも、文法・作文どちらかに重点が置かれて、どちらかが不足して来るのではないかと思われる。大方の学校では文・作で一つの教科書を用い、文法に重点を置いているのではないかと思われる。しかし何れにせよ、文法・作文それぞれ1単位という現行のカリキュラムが不適當に思われるのである。このカリキュラム編制は48年度実施においても前述した如く変っていないのである。それで私としては、高校の文法授業としては2単位、週2時間をするを希望したい。週1時間では、教科書も1年分が2年にまで持ち越し、結局3年の終りには3年の教科書の最初がすむかどうかということになる。

結局3年間を通して2年分の授業しか出来ないことになる。それでこの授業不足を補うためにはその分だけの補習授業を行わねばならず、それは他の補習授業(受験対策のための)のため不可能な状態なので、正規の授業の中で行うとすれば、文法・作文のどちらかに重点を置き

て、教科書も一冊にして週2時間行うより方法はないわけである。これは前述した如く多くの学校で現在行っている文法授業の取り扱い方であると思われる。しかしこれはあくまでも希望であって実際はこの通り行えなくなる。何故ならば、本校としては先きに、48年度より実施予定の新カリキュラム案を決定しましたが、それによると英語科においては6-6-6にて行うのでその内容は〔リーダー3単位、文・作1単位、サイド2単位〕となる。これは他教科とのカリキュラム編制上やむを得ずここに落ちついたわけである。それ故、これによると自然文・作で週1時間行うこととなる。これでは現在行っている文・作各週1時間づつ行っている時数よりもさらに1時間少くなるのでますます授業時数の不足を生じ、教科書を進めてゆくのに困難を感じることになると思う。

従って、教科書の全文法事項を取り扱うことは無理となる。それで1学年に1教科書を終わらせることは到底出来ないので、教科書の文法事項の中必要なものを取捨選択して教えねばならなくなる。それではどのような選択をしたら良いかと言うと、これはなかなか難しいことであるが、私見を述べて見たいと思う。

今ここでは本校で現在使用している文法教科書 How To Use Better English (教育出版)の1, 2, 3について述べることにする。今巻1からの文法事項を書き出して見たい。

巻1 Part 1. Sentences—I. Subject and Predicate 2. S+V 3. S+V+C 4. S+V+O
5. S+V+I.O.+D.O. 6. S+V+O+O.C. 7. Negative Sentences 8. Interrogative Sentences 9. Negative Questions and Tag-Questions 10. Wh—Questions Mastery Test

以上の Part I は中学校にても一応習得したことの復習であるが、高校における文法を学ぶ基礎となるので、やはり省略するわけにゆかないと思う。一通り行うべきであると思う。

次に Part Two からの項目を述べることにする。

Part II. Nouns and Articles—1. Kinds of Nouns 2. Number (Singular and Plural)
3. Possessive Case 4. Articles

Part III. Pronouns, Adjectives, and Adverbs

Part IV. Verbs—Tenses and Voices

Part V. Relatives

巻2. Part I. Special Verbs (Be動詞その他)

Part II Verbals (不定詞, 分詞, 動名詞)

Part III. Sentence Structure (Noun Clause, Adjective Clause, Adverb Clause)

Part IV. Uses of Prepositions

巻3. Part I. Direct and Indirect Speech—1. Statement 2. Question 3. Request, Demand, Suggestion, Order, and Exclamation 4. Compound Sentences

Part II. Concord—1. Single Ideas with Singular Verbs 2. Singular or Plural ?

(1) 3. Singular or Plural ? (2)

Part III. Work with Sentences—1. Conversion of Sentences (1) 2. Conversion of Sentences (2) 3. Conversion of Sentences (3) 4. Conversion of Sentences (4)

5. Word-order and Inversion 6. Ellipsis and parenthesis 7. Negation

Part IV. General Review

以下の項目省略。

このようにして現行の文法教科書を見て来ると、これは教科書によっても多少の相異はあると

思うが、大体主要な文法事項は巻2までで終了していて、巻3は巻2までの応用又は追加の項目が述べられていると考えられる。従って先きに文法授業を週1時間で行ってゆくためには、各学年の教科書の文法事項を取捨選択してゆくのが良いと述べたが、実際に文法授業を行って来た今までの経験から言うと、巻1, 2まではどの項目も重要であり省略することは出来ないと思う。ただその中特に強調すべき項目として先きに述べた新指導要領に決められた項目はあるが、文法授業を行うのに現教科書の文法事項のどの一つも省略することは出来ないと思うのである。それ故、第1, 2は従来通り順を追って行い、巻3はたとえ3年間で終らなくとも、補習授業（放課後又は夏季）にて行うか、又は各自の自習にまかせて省略しても仕方ないかと思う。先きに述べた如く、巻1, 2までで高校で教える文法事項としては必要なだけを含められているので、カリキュラムの必要上やむを得ないとすれば、高校3ヶ年間に於いて巻3までを終了しないともし仕方ないのではないかと思うのである。これは先きに本校で新カリキュラムを決めた際、他教科との関係から、又学校全体のカリキュラム編制上から英語科として各学年6単位と決めた範囲の中で考えた場合、文法授業時数として週1時間以上取れない現状においてはやむを得ないのではないかと思う。

今ここで大学受験を考えるのは良くないかとも思うが、現在進学校の高校として先ず第一に受験を目標とし、それに備えての授業を考えざるを得ないとすれば、大学入試において文法問題の占める分野はごく一部であって、大半は読解問題によって占められるのが現状なので、以上のように文法を扱うのも仕方ないと思う。

これは文法授業を軽く考えて良いと言うのではなくて、決められた時間数内で、読解、文法、作文を教える場合、文法授業を以上の如く取り扱ってゆくのもやむを得ないと考えるからである。さて英語という教科をリーダー、文法、作文と分けるのが無理なので、英語本来は読解も文法も作文も共に含められるべきものと思う。それ故、リーダーの授業だからと言って文法、作文を教えないと言うのでなく当然リーダーの時間に、文法、作文も教えるべきだと思う。然しこれを行っているとき多くの時間を必要として授業計画が予定通り進まないの、便宜上リーダー、文法、作文と分けているのだと考えられる。従って、その限られた時間内で文法授業の効果をあげてゆくためには、高校3ヶ年間の文法教科書の文法事項を取捨選択してざっと教えるよりも巻1, 2を徹底して教えるのが良いと思う。又今まで述べた如くカリキュラムの上から時間数に制限がある以上は、この取り扱い方に落ち着かざるを得ないのではないかと考えられる。

さて今までは現行の文法教科書を使用した場合の新カリキュラムによる文法授業時数について述べたのであるが、ここで考えられるのは、昭和48年度から実施の文法、作文の教科書のことである。これは文法は3単位用1冊、作文は1単位用3冊となっている。それ故、文・作週1時間で行う場合は、どうしても文法3単位用1冊を使用するだけになり、作文1単位用3冊を使用するためには作文の時間を1時間別に取る必要がある。又文法教科書としては1冊になるので、実際に調べて見ないと分らないが、従来の3冊（各学年1冊）から見ると大分縮約された形の教科書ではないかと考えられる。それならば週1時間の授業で3ヶ年間十分くわしく教えられるのではないかと考えられるのである。勿論作文の問題は残るわけであるが、これは、別に教科書があるので6単位のわく内で授業を行う場合は、サイドの1時間を割いて作文の授業に当てるようにするより仕方ないことになる。しかし今は文法の授業時数だけを問題としたいと思うのである。

以上、新カリキュラムによる文法指導という題目で述べたのであるが、実際の文法指導についてではなくて、専ら新カリキュラムにおける6単位という枠内での文法授業時数の取り扱い

方を述べたことになる。これは今さし迫っては一番問題となることなので本校のカリキュラムを前提として述べたわけである。従って表題にあわないかとも思いますが、当面の問題点として私見を交えて述べた次第である。今後は更に進んでこのカリキュラムによる実際の文法指導は如何あるべきかという問題を考えてゆくべきではないかと思う。その際はもっと新文法教科書の内容を検討した上で慎重に考えてゆかねばならないかと思うのである。それにしても以上述べた新カリキュラムの6単位という枠内での文法の単位の扱い方についても、いろいろ問題点もあると思うし、今まで述べたことはあくまで本校の昭和48年度からの新カリキュラムによって述べた考えであるので、他の諸学校におけるそれぞれの立場における考えもあると思うのでそれ等を参考にして、今後決めてゆきたいと考える次第である。